

6月16日 わかる

「わかる」は漢字で、「分」、「別」、「解」、「判」と表記する。それぞれの漢字をよく見ると「分」は「八」と「刀」、「別」は「骨」と「冫(りっとう)=刀」、「解」は「角(つの)」と「刀」と「牛」、「判」は「半」と「冫」にわけることができる。漢字の成り立ちを考えれば「分」は刃物で切り分ける、「別」は骨から肉を切り取る、「解」は刃物で動物を解剖する、「判」は半分に切り分ける、という意味だということがわかる。

私たちはものを理解する際、漠然とあるものを「知っているもの(知識)」と「何かわからぬもの」に細かくわけ、そのつながりを考えて「何かわからぬもの」を知識に変える。つまり「わかる」ことで「わかる」を得ているのだ。

子どもの頃、父親が大切にしていたカメラを、調子が悪いと聞いていたのでこっそり分解したことがある。小さなネジを慎重に外しながら、レンズとその下の絞りを外した。カメラの不調の原因は絞り羽根についた油だとわかったので、一枚ずつ外して布できれいに拭き取った。そこまではよかったのだが、組み直す際、絞り羽根を元の形に戻せなくなってしまった。仕方なく外観だけ整えて、カメラを元あった場所に戻しておいた。

「あのカメラ、調子が悪かったけど、とうとう壊れたみたい。絞りが全く動かなくなった……。」カメラを壊した犯人が私だということを未だに誰も知らない。

私たちは多くの「何かわからぬもの」を「わかる」につなげるまでの過程で、たくさんの失敗を積み重ねてきた。しかし、それを恐れたり、否定したりしてはいけない。なぜなら、失敗することで多くの知識を得、現在の「わかる」を手に入れているのだから。

私自身、カメラの分解を通して「素人が精密機械を分解してはいけない」ということが「解」った。

